

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成25年度 第8回理事会 議事録

日 時: 平成25年11月13日(水) 13:00~17:20

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

深津泰彦会長職務代行、丸尾充副会長、星芳樹専務理事、伊藤信明、大神訓章、大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐々木三男、品田奥義、庄司義明、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、原田茂、福井晴次、堀井幹也、水谷豊理事、吉田利治、吉田長寿の各理事

<監事>

高原洋太郎、松岡憲四郎、山崎均の各監事

<特任委員>

片山正明、西井歳晴、林直樹の各特任委員

欠 席: 麻生太郎会長、梅野哲雄副会長、鈴木秀太理事

内山英司、小倉恭志、上島正光の各特任委員

オブザーバー: 金井克仁(顧問弁護士)

議 題

- (1) 報奨金の授与について
- (2) 競技者登録における取得情報について
- (3) 日本協会主催以外の国内有料競技会開催における納付金基準について
- (4) 大会要項について
- (5) 天皇杯・皇后杯 次年度大会の実施時期について
- (6) 2015年度 FIBA ASIA女子選手権大会 開催地希望伺いについて
- (7) 国内主要大会における会場警備強化について
- (8) 男子強化戦略委員会の設置について
- (9) 暴力行為等に関する裁定委員会答申について
- (10) 第79回皇后杯 全日本総合選手権大会での参加資格に関する件について

冒頭、会議に先立ち、第25回FIBA ASIA女子選手権大会で優勝を収めた内海ヘッドコーチより大会を振り返っての報告があった。

1. 定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(23名)の過半数の出席数(出席:20名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

深津会長職務代行より開会の挨拶があった。

3. 議事

議長は深津会長職務代行が務めた。

議事に先立ち、堀井理事より、佐古理事から一身上の都合により10月末での辞任届が提出され、受理していることが報告された。

(1) 報奨金の授与について（星専務理事）

「第25回FIBA ASIA女子選手権大会」において優勝を収めた女子日本代表チームについて、報奨金規程に基づき、規定のスタッフおよび選手には規定通り30万円、それ以外のスタッフ(理事、職員、審判を除く)には10万円の報奨金を授与することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(2) 競技者登録における取得情報について（堀井理事）

FIBAのレギュレーションに準じた国内での競技者の登録管理を行うため、また、各大会要項に則った競技を行うため、競技者登録時の取得内容に新たに国籍情報を追加すること、尚、当面は任意項目とすることが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(3) 日本協会主催以外の国内有料競技会開催における納付金基準について（堀井理事）

国内有料競技会(無料競技会であっても第三者による特別協賛または協賛を伴う大会を含む)開催における納付金基準について、前回の理事会での協議内容を踏まえ、入場料金を徴収しない大会については2014年度は無料とし、手続きの徹底を図りながら現状を把握し、2015年度以降は改めて検討することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(4) 大会要項について（庄司理事）

「第46回全日本実業団選手権大会」、「第12回全日本デフ選手権大会(ミミリーグ)」および「平成26年度第69回国民体育大会(長崎国体)」の大会要項が提案され、国体については長崎国体以降の新たな取り組みとして、ブロック大会参加申し込み時に予備登録を含む24名の選手を登録し、本大会での選手変更については予備登録した選手からのみ変更を認めることが説明された。審議の結果、国体については、原則、診断書を添える旨を追記することとし、承認された。

また、東京国体の予選において未登録選手の出場があったこと等もあり、登録や大会エントリーに関して、改善策を検討することとした。

<承認>

(5) 天皇杯・皇后杯 次年度大会の予選実施時期について（庄司理事）

平成26年度の上皇杯・皇后杯について、予選会の実施(または推薦チームの選考)を11月末までとすること、また推薦団体向けにその通知を行うことが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(6) 2015年度 FIBA ASIA女子選手権大会 開催地希望伺いについて (星専務理事)

リオデジャネイロオリンピックのアジア地区予選となる2015年のFIBA ASIA女子選手権大会について、リオデジャネイロオリンピックの出場権獲得のため、日本招致を前提として、各都道府県協会に対して開催希望の案内を出すことが提案され、承認された。

尚、FIBA ASIAで定められた開催時期は6～7月であるが、国内リーグの開催時期を踏まえた強化を考えるとより遅い時期での開催が望ましいことから、FIBA ASIAとも交渉を行っていくこととした。

<承認>

(7) 国内主要大会における会場警備強化について (堀井理事)

選手および観客の安全を配慮し、ウインターカップ、ジュニアオールスター、全国ミニバスでの会場警備を強化することおよびそれに応じた費用を追加計上することが提案され、原案通り承認された。

<承認>

(8) 男子強化戦略委員会の設置について (星専務理事)

2020年の東京オリンピックに向けて、男子強化における中長期の強化戦略、若年層からの一貫体制の方向性を定めるために特別委員会を設置すること、また、そのメンバーが提案され、原案通り承認された。尚、遅くとも年度内には答申を出すことが確認された。

<承認>

(9) 暴力行為に関する裁定委員会の答申について (堀井理事)

大阪のミニバスチームで起こった大会中のベンチにおける暴力行為について大阪協会より報告があり、裁定委員会にて事実確認、対象者、被害者の保護者および目撃者のヒアリングの結果、暴力行為があったとは認められないため、対象者には処分を科さないことが提案され、原案通り承認された。

また、現在体罰事案は基本規程に則り、JBAの裁定委員会にて扱っているが、都道府県協会が扱う場合には裁定委員会同様の機能を持つ第三者委員会が必要なこと、来年度以降は都道府県協会にも委員会を立ち上げていただき、ガイドラインを作って権限を委譲していく方向であること、また、競技および競技会に関する事案を扱う規律・プレイクリーン委員会についても、都道府県協会等に設置の推進を図っていくことが補足された。

さらに、関東の高校での暴力行為については、対象者が心神喪失状態であり、まだ調査できる段階ではないこと、他にも数件寄せられている事案については、現在調査中であることが報告された。

関連して、懲罰を科した対象者または団体から不服申し立てがあった場合、日本スポーツ仲裁機構への提訴を認めており、JBAはそれを受諾することになっているが、加盟団体他傘下の団体においてもJBAに準じ、仲裁機構の仲裁を受諾することが望ましく、今後指導的な依頼を実施することが確認された。

最後に、シャンソン化粧品の件については、まだ裁定を行える段階ではなく、次回以降の理事会に持ち越しとなることが報告された。

<承認>

(10) 第79回皇后杯 全日本総合選手権大会の参加資格に関する件について (品田理事)

第79回皇后杯 全日本総合選手権大会の参加に際して、WJBLから推薦されたトヨタ自動車が第14回W

リーグ参加時点でWJBLの競技規則に抵触した選手を出場させ、また、これが皇后杯の参加資格に違反していたことを受け、規律・プレイクリーン委員会にて検討の結果、第79回皇后杯出場時には違反にあたる事実が判明しておらずチームおよび選手に恣意的なものはないことやWリーグへのエントリー時の経緯等諸々の事情を勘案し、WJBLに対して「戒告」、トヨタ自動車に対して「注意」とすること、また、皇后杯の成績は変更しないこと、強化奨励金の返金は求めないこと、第80回皇后杯の出場についてはWJBLの運用に準拠することが提案され、一部強化奨励金などについて意見があったが、賛成多数により原案通り承認された。

＜承認＞

4. 報告事項

報告事項に先立ち、山崎監事および松岡監事より評議員の役割(職務、権限等)についての意見、また、業務監査における質問があり、質問事項の4～6については、書面で回答することが確認された。

(1) 一般報告 (堀井理事)

2013年10月の諸会議等の開催実績が報告された。

(2) 総務部 (堀井理事)

9月末現在の予算執行状況では、見直し後予算に対し、総支出は31%、総収入は40%となっていること、読売新聞社の第63回日本スポーツ賞にはFIBA ASIA選手権大会優勝の女子日本代表チームを推薦すること、12月にTIPOFF(オフィシャルマガジン)の増刊号を発行する予定であることなどが報告された。

(3) 事業戦略部 (吉田(長)理事)

2014年度の国際親善試合について、いくつか開催希望や問合せが来ていること、次年度以降の日本代表スポンサー、サプライヤー等について営業活動を実施していることなどが報告された。

(4) 国際部 (星専務理事)

2014年のワールドカップ(男子)のワイルドカードの申請についてFIBAから案内があったが、FIBA ASIA選手権での戦績、国内の体制、多額の寄付金が必要となることなどから今回は申請を見送ったこと、また、11月2日にFIBA ASIAの会議が開催され、FIBA中央理事会の報告、2013年のFIBA ASIA大会の総括、2014年度のFIBA ASIA大会の開催地などの報告があったことが報告された。

(5) 3x3推進室 (吉田(長)理事)

FIBAの3x3ランキング制度の仕組み、また、そのランキング制度によって2014年のFIBA 3x3世界選手権の男子の出場権を獲得したことなどが報告された。

(6) 競技会委員会 (庄司理事)

平成26年度の競技日程の一部変更、ウインターカップでJXホールディングス株式会社、JX日鉱日石エネルギー株式会社の特別協賛などが追加決定したこと、国内大会および国際大会の結果などが報告された。

(7) 男子ナショナル委員会（星専務理事）

大学生メンバーで臨んだ第6回東アジア競技大会の結果、日本は4位となったことが報告された。

(8) 女子ナショナル委員会（高橋理事）

第6回東アジア競技大会では決勝でチャイニーズ・タイペイに敗れ、準優勝、第25回FIBA ASIA選手権大会では7戦全勝で43年振りの優勝を果たしたことが報告された。東アジアでは情報収集をしながら自らは手の内を見せない戦い方をしたこと、今回はリオに向けてということで大幅に若手に切り替えたが、ベテランの大神選手、久手堅選手がリーダーシップを発揮してくれ、また若い選手も存分に力を発揮してくれたこと、スタッフ陣もそれぞれの役割を全うしたこと、FIBA ASIA選手権大会の優勝は中国が12回、韓国が11回と長い間2強であり、危機感を持って臨んだこと、また、各都道府県協会や母体チーム、リーグ関係者などの協力があって十分な強化活動期間をとれたことなどが勝因としてあげられた。また、今後リオや東京オリンピックに向けて、皆さんの協力をもらいながら、引き続き強化を進めていきたいとの話があった。

(9) テクニカル委員会（佐々木理事）

コーチコミッティー関連では、2月11日に全国指導者育成委員長会議を予定していること、2月15日～16日に仙台で今年度2回目の全国コーチクリニックを開催する予定であること、中体連の専務理事および事務局長とコーチライセンスの義務化に関する話し合いを行ったことなどが報告された。

エンデバー関連では、10月12日～14日にU-15女子、11月2日～4日にU-15男子トップエンデバーを行ったことなどが報告された。

ジュニアエリートアカデミー関連では、10月26日～28日に21人で第1回のキャンプを行い、15名に選考されたことが報告された。

(10) 国体委員会（野村理事）

U-16の導入について日体協との調整を進めているが、全国高体連および日本中体連が難色を示していることがあり、国体委員会としてはさらに説明をし、理解を求めていく方向であることが報告された。

また、11月下旬に第70回和歌山国体、第74回茨城国体、第75回鹿児島国体、12月には第72回愛媛国体の視察を行う予定であることが報告された。

(11) NBL（丸尾副会長）

来年度からNBDLに参入することが決定していた宮崎のチームより辞退の申し出があったこと、NBDL加盟チームとの協議の結果、辞退を受け入れることになったことが報告された。

以上